

もの言う牧師のエッセー 第88話

「失敗の法則」

愛称「ドリームライナー」。日米を始め、英、伊、仏、カナダ、オーストラリア、中国などから参加企業は実に900社。炭素繊維の多用による軽量化にともなう大幅な低燃費の実現、最大旅客数の増加、飛行速度と航続距離の向上と、まさに鳴り物入りでボーイング787は2011年暮にデビューした。が、この「世界最高技術を結集した」とまで謳われた機の、これまでの迷走ぶりは周知の通りだ。

今年1月にボストン・ローガン空港で起こった駐機中の日本航空008便のバッテリー火災以来、世界各地で燃料漏れ、発煙、ガラスのひび割れなどトラブルが続出。ついにFAA（米連邦航空局）は運行停止を指示。これにより1979年のマクドネル・ダグラスDC10墜落事故以来の、世界中の同型機全てがで運航停止になるという事態となった。しかも良く分からないのは、バッテリーの出火原因も特定出来ぬままFAAはたった3ヵ月後には運行再開を承認。案の定その後もトラブルは続いている。

「ロシアンルーレットで1発目が平気だったから次も大丈夫というのか？」と86年のスペースシャトル爆発事故調査委員会において、米物理学者R・ファインマン博士は現実より体面を優先するNASA首脳部を批判した。“ハインリッヒの法則”は、「1つの重大事故の背後には29の軽微な事故があり、その背景には300の異常が存在する」ことを示し、“マーフィーの法則”も「失敗する方法があれば、誰かはその方法でやる」と人間の不完全さを認める。だが聖書はもっとストレートで痛烈だ。

「太陽の下に起こる全てのことを悟ることは、人間には出来ない。人間がどんなに労苦し追求しても、悟ることは出来ず、賢者がそれを知ったと言おうとも、彼も悟ってはいない。」

伝道者の書8章17節：共同訳。

今から約3000年前にこの一節を書いた人物は、当時最高レベルの頭脳と科学技術を有したソロモンである。その彼が「出来ない」と言っている。自分がどれだけ優秀でも、創造主なる神の前にひれ伏す。これが信仰である。いっぽうで自分で何でも出来ると思ってる人がいる。

これこそがウツカリした無知などではなく、積極的な罪なのだ。そしてこの罪が増幅し無用の失敗を生み出していく。根拠もなく「大丈夫」などと言うのが一番危ない。でも大丈夫。なぜなら大丈夫じゃないからこそ救い主キリストが来られたのだ。

2013-7-3

